

つみきのメモ

2023.3.25

vol. 20

特集

利府町の地域資源を考えるシリーズ

里山 編

十符の里びと19人目

観光ボランティアガイド

櫻井勝男さん

From RIFU-CHO CHALLENGER

真栄工芸株式会社 ×

りふくる代表 佐藤大輔さん

利府駅前tsumikiから

まち・ひと・しごとを発信

tsumiki

利府町まち・ひと・しごと発信プロジェクト



特集

利府町の地域資源を考えるシリーズ

利府町は県民の森（菅谷）から森郷にかけて森林が広がり、その山裾から平地を流れる砂押川と勿来川の2つの川は海へと流れています。今回は、こうした地形の利と自然の恵みを生かした里山の地域資源に焦点を当てました。なかでも、2022年12月12日より販売開始となった「利府の逸品」シリーズの中から、天然はちみつと利府米の生産者、販売元である沢乙温泉うちみ旅館当主にお話を伺いました。

構成・文 葛西淳子

「利府の逸品」シリーズとは



利府町に変わらずにある良きものを大切に守り、素地の美しさを磨きながら継承してきた風土、歴史、文化、地域資源の魅力を知ってもらいたいという想いのもと、沢乙温泉うちみ旅館とtsumikiがブランディングし誕生した町の特産品です。

利府米

利府町加瀬元川迎地区
米農家 櫻井儀一さん



利府町のお米は、宮城県内では生産数が少ないものの、味には定評があります。藩政時代より仙台藩の献上米として評価を得ていたと町の口伝にも遺っています。利府の米は、勿来の関（なこそそのせき）を水源とするミネラルたっぷりの水と太陽の光を浴び、良質な土壌で育ちます。現代ではコンバインで稲を刈り、乾燥機によって米を乾燥させる方法が主流となっていますが、利府町の櫻井儀一さんは、棒に掛けて天日干しするという昔からの伝統農法で米作りを行う農家のひとりです。利府の田んぼは特有の粘土質の土壌のため、機械が入れないところは手作業で稲を刈取ります。その後、棒掛けにして

自然乾燥させます。天日干しすることで薬からの養分が行き届き追熟するため、より甘みと香りが力強くなり味わい深くなるのです。

伝統的な農法を伝承し、利府の農家さんが手間暇かけて作る利府米。これからも人々に伝えていきたい味のひとつです。



棒掛け天日干し

はちみつ

利府町沢乙地区
日本みつばち養蜂家
おおとも たかお
大友孝雄さん



利府町内に日本みつばちが生息しているということは、町内の自然環境が良好に保たれているという証です。幻のはちみつと謳われる沢乙地区産の天然はちみつは、利府里山の木々や草花の蜜を集めた百花蜜。非加熱で何も加えていないので、ミネラル、ビタミン、アミノ酸などの栄養素が数多く含まれ、熟成された濃厚な味の特長です。飼育もほとんど人の手を加えず日本みつばちの生態にあわせて行われています。日本みつばちは、1つの群れに1匹の女王蜂がいて雌蜂（女王蜂と働き蜂）と雄蜂を産みます。寿命は3年位。働き蜂の寿命は短く1か月位（越冬する蜂は約6か月）、主な役割は幼虫の世話で、巣作りや掃除、巣の警備などの内勤を経て、外に出かけ蜜や花粉を集める仕事をします。蜜を集める期間は1週間から10日位。1匹の働き蜂が一生で集める蜜の量は、ティースプーン1杯（5g）程度といわれています。雄蜂は、生殖の役目が終わると死んでしまうそうです。冬の間11～2月までは越冬し、巣の中で球状のかたまり（蜂球）になって過ごします。3月彼岸を過ぎた頃から、蜜や花粉集めを開始。春の花が豊富な時期は活発に活動します。この頃新しい働き蜂が生まれ数が増加。4月には新女王蜂誕生の時期を迎えます。5月になると、巣箱の中に納まりきれなくなり、従来の女王蜂は約半分の働き蜂を連れて巣別れ（分

蜂）を行います。夏時期は暑さで巣落ちするトラブルもあるそうです。9月は、1年に1度の採蜜の時期。春から秋まで巣の中で熟成された蜜が採取されます。巣箱は重箱式で、30×30×15cmの栴箱2、3段から始めて、巣の成長にあわせて箱を足して4、5段位まで重ねていく方式です。蜜を採取するのは、上部の一段だけ、残りの段は越冬時の餌として蜂たちのために残します。1つの栴箱から採れる蜜の量は5kg程です。大友さんは、2011年から日本みつばちの養蜂を始めました。最初の2年程は順調で巣の群れを12群位まで増やしたのですが、2010年長野県で感染が報告されたアカリンダニの影響で、2022年には6群まで減っています。アカリンダニは蜂の気管内に寄生し、巣が全滅するほど感染力が強くなる被害は全国に広がっています。残念ながら現在有効な駆除方法はありません。また温暖化など気象現象の変化も顕著になり、個体数は全体的に減少傾向にあります。日本みつばちは大古から、子孫をつなぐために進化し生き延びてきました。大友さんは「その生命力を信じていきたい」と言います。そのためには日本みつばちが好む草花木の植物を増やし生態系を維持すること、田畑で使用する農薬を規制するなど、稀少な地域資源守るには環境保全も必須条件となってきます。

「利府テロワール」を提唱する



沢乙温泉うちみ旅館
九代目当主
うちみ たかし
内海貴史さん

千年風土。その土地の風土とは、自然環境だけでなく、その地域で永年人々が培った歴史的、文化的な人の営みを示します。フランスでは、地域の地形、気候、土壌、自然風土の特性や特色を生かした地域産業、地域全体の「食」に関わる文化圏をテロワールといいます。利府テロワールを語る上で、最大の魅力が清らかな水源です。深い森林に降る雨が、山のミネラル分を吸収して沢や川に流れ、田んぼに引き込まれます。良質土壌の農耕地帯が稲を育みおいしいお米になります。また、森から流れるミネ

ラルたっぷりの水が海につながり良質海域になります。利府の森林に降り注ぐ雨が、地下に浸透してゆく中で落ち葉や土の養分を水ながら伏流水脈（地下水脈）を通り田畑や海底に湧き水となって溢れることが、良質な米、野菜、果物、海産物の味の決め手となります。利府のミネラル豊富で清らかな伏流水脈が古から穀物や果樹の美味しさを保ってきた由縁です。利府の魅力である清らかな風土を生かした産業、文化、それを支える人材が町の宝として継承されていくことを願っています。

利府町のんびりまち歩き

利府菅谷を歩く —陽来復ウォーキング5.5キロ

案内人 ● 御朱走松島（ごしゅらんまつしま）鈴木由美子さん
日 時 ● 2022年12月18日（日）10:00～12:45



御朱走（ごしゅらん）は「御朱印」×「ランニング=走る」を掛け合わせたガイドツアーです。誰でも気軽に参加できるウォーキングツアーとして運営しています。自然の中を歩くことは心身の健康につながり、参加者同士や地域の人々のあたたかな交流の場にもなっています。今回は、利府町菅谷地区を歩きました。

いざ出発！



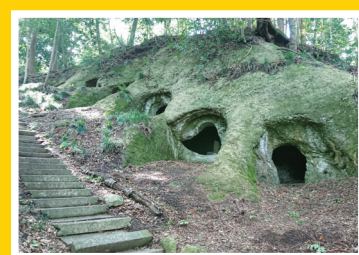
スタート

グランディ21駐車場

車から看板を眺めることはあっても行ったことがなかった菅谷不動尊へ。

菅谷不動尊

平安時代末に東北に進出してきた藤原氏が、戦乱でなくなった人々の霊を慰めるために紀州高野山から分霊したといわれる不動明王が安置されています。また、お堂の裏にある小さな滝の水は、眼病に効くといわれています。



菅谷横穴墓群

道安寺の裏山一帯にあり、中からは須恵器・土師器等の土器類の他、勾玉・管玉等の装飾品も見つかっています。

曹洞宗道安寺

慶長18年に大林寺四世雪橋大積和尚によって入寺開山されました。



ご住職にご協力いただきました

菅谷の穴薬師

道安寺の南にあり、菅谷横穴墓群のひとつ。平安時代、慈覚大師が仙台市岩切の薬師、七ヶ浜湊浜の薬師とともに一夜のうちに造ったといわれています。この菅谷の穴薬師は「夜中の薬師」といわれおり、現在では前面にお堂が建てられ安置されています。



イズサヒメ 伊佐佐比賣神社

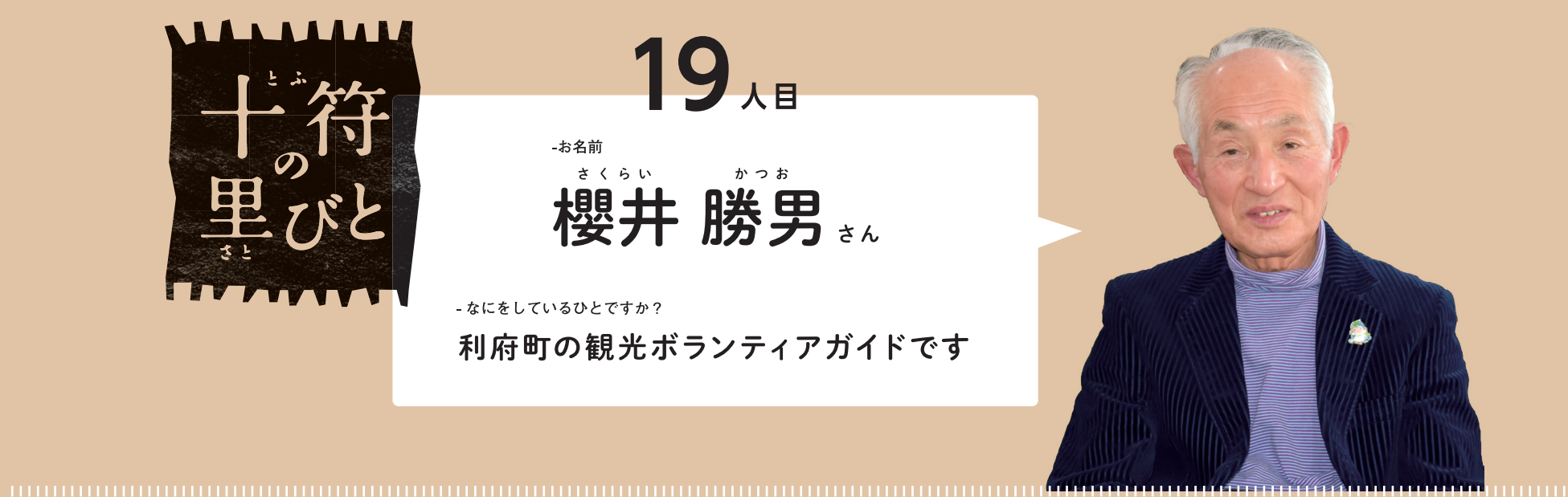
「イズサヒメ」は、物を生み出す力を持つ女神であり、五穀豊穡を司る神として祀られています。『延喜式』にも記載されている由緒ある神社です。恵玉姫や九門長者に関する伝説が残されています。



鈴木由美子さん

住宅地からちょっと離れたところに行くくと日本の原風景が広がる菅谷地区は住宅地と 里山が対照的でおもしろいまち歩きとなりました。初めて訪れた菅谷横穴墓群は吸い込まれそうなくらいの異次元スポットでした。穴薬師に行く道は里山らしい穏やかな風景が残っており、利府は時空を超越する町だという感じがしました。

参考:「十符の里」さんぽみち(利府町教育委員会・編集)



豊富な経験と柔軟な発想から生まれた 観光ツアー「利府の旅」

利府町の魅力を発掘し 町内外に伝えたい

櫻井勝男さんが発起人となり、2005年「利府町観光ワークショップ」を開催しました。当初から呼び込みたい対象者を町外の方々に設定し、利府に来た方自身が利府の魅力や感動を人々に伝えたいというツアーをねらい企画内容を検討。翌年10月第1回「利府の旅」と銘打った観光ツアーを実施すると、参加申込みが120名を超える反響でした。確かな手応えを得た櫻井さんは、継続した事業運営をしていくため、前職の日本交通公社時代に培った豊富な業務知識と経験を生かしコース内容や案内方法に工夫を凝らすとともに、参加者獲得にも乗り出しました。

そして、「JR東日本との交渉を重ね「駅長オススメの小さな旅」とのタイアップが実現。その宣伝効果は、



観光ボランティアガイド制度
利府町観光協会では、「十符の里 利府」を観光で訪れる方々のために観光ボランティアガイドを無料で派遣しております。町内の施設、名所、史跡などをわかりやすく丁寧にご案内致します。

- 利府町観光ボランティアガイドに関するお問合わせ
特定非営利活動法人 利府町観光協会
〒981-0103宮城県宮城郡利府町森郷字柱田26-8
(利府町コミュニティセンター内)
☎ 022-356-3678 (FAX 022-355-5113)
🕒 平日9:00～16:00
✉ info@rifukankoukyoukai.com



利府町で暮らす面白い人を毎月ひとりずつ紹介していきます

十符（とふ）とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が生じ、「菅藁（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅藁の編み目が10編あることから「十符の菅藁」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われてい

ルージング体験など、四季を通じて楽しめるコース。また、須賀地区のハーバーハウスかなめで伝統漁法体験、利府東部の史跡と森郷キャンプ場訪問、加瀬地区にある天祥寺で座禅体験会など、地元の方々の協力を得ながら行うコースもあります。

櫻井さんは観光ツアーに大事なものは「見る・食べる・遊ぶ（体験）の3つの要素」と語り、これを「るるぶ」と名付けお客様を案内しおてもなしするときの心得としています。

人気の秘密はボランティアガイドのおもてなしの心

ツアーの定員は30名。毎回ほぼ満席となり参加者の内訳は99%が町外と福島、山形、岩手県の方で占められています。リピート率も高く、10回参加する毎に感謝状と記念品を進呈しているのですが、すでに90回目になる方が2、3人いるというから驚きです。コースの充実はもちろんですが、リピーターの中には、櫻井さんたちボランティアガイドに会いに来る方も多

いようです。

日頃、櫻井さんがボランティアガイドに伝えていることは、「利府っていいな、将来利府に住んでみたいなあと感じてもらえるような案内しましょう」さらに続けて「名所の説明はほどほどに。道中、お客様との会話を楽しめましょう。真心こもった誠実な受け入れ態度が一番です」と指南します。さぞ念入りな研修があると思いきや、ボランティアガイドにとって唯一の指針は、町内の観光スポットが一覧となっている小冊子「十符の里さんぽ道」（利府町教育委員会発行）。特に勉強会等は行わず、自己研鑽と実地訓練でガイドの経験を積んでいくそうです。



▲利府町須賀でワカメ狩り体験

「何が求められているのか」 アンテナを張る

参加者と会話を重視する試みとして、お昼の会食後20分程度参加者との交流の場を設けているのが特長です。櫻井さんは「感想や質問、苦言や提案も含めて、何でも話し合えることが一番の強みです」と言い「私たちは、皆さんの意見や感想を持ち帰り、計画、実行、検証、反省の繰り返しです。施設の環境が整備されたという事例もあります」忌憚なき意見交換の場は、参加者にとっても主催者側にとっても有益な機会となっているようです。

今年82歳になる櫻井さん。「旅行観光という仕事が好きなんだね」と言い「お客様は何を求めているのか問題の先取りをしなければならない。仕事のすべてをお客様から教わってきたと言っても過言ではないです」そして最後に一言、「これから利府町にとって、いかに他の果から人を呼び込むかが勝負。ボランティアガイドの活動を通して地域貢献できることにやりがいがあるし一番おもしろいね」と、まだまだ意欲的な活動が続きます。

取材・文 葛西淳子

from RIFU-CHO CHALLENGER

— CHALLENGER —

真栄工芸株式会社 × 利府町まちおこし支援協力会
りふくる代表 佐藤大輔さん



—— 企業と町民がコラボ「モルックプロジェクト」

モルックは、老若男女が楽しめるアウトドアスポーツとして、近年、全国的に注目されています。モルックを家族で楽しんでいた佐藤さんは「市販の物はほとんどが木生地でおもしろみがない。もっとカラフルでオリジナルな物があたら楽しいのになあ」と考えていたそうです。そんな折、2022年9月利府町主催「ALL RIFU 産業祭」に出展していた真栄工芸の社長と出会います。佐藤さんが「真栄さんの技術を使って利府町でモルックを作れないでしょうか」と相談。「やってみましょう」と社長から快諾が得られ、さっそく設計部、制作部、営業部から選抜したメンバーと佐藤さんによる「モルックプロジェクト」が立ち上がりしました。

—— 簡単にはいかない！試行錯誤の連続

毎月1回打合せが行われ、佐藤さんのアイデアや提案を真栄工芸の技術職人たちが試作することの繰り返し。「SDGsに基づいて廃材を利用できないか」「硬さや材質が違い積層は難しいが、木目の良さを引き出したい」「角材を丸材に加工できるところはないか」「手作業で塗装するのでは手間がかかりすぎる」「円柱にダイレクト印刷する方法はないか」等など。製作の工程が進むに連れて出てくる課題を次々クリアし、試作品がバージョンアップしていく工程の中で、佐藤さんは「自分の頭で思い描いていた以上のものが、製品として具現化していくことに驚きと感動の連続でした」と語ります。製作チームは「佐藤さんの提案は自分たちに足りないところを指摘してくれるのでやりがいがありました」と受け止め、「何より課題が一つ解決することに佐藤さんがめちやくちや喜んでくれるのが励みになりました」とチームの関係は良好です。

—— 利府町ふるさと納税返礼品として出品

2022年12月末に、利府町から「スパイシーモルック」が誕生しました。北欧風の図柄がプリントされていてカラフル。一般販売には価格設定と販路確保が課題となっていますが、まずはふるさと納税の返礼品として出品しています。商品開発と並行して児童館の職員や子どもたち、健康増進を図る高齢者グループの方々を対象に、モルックの普及活動も行ってきました。佐藤さんは「老若男女関係なく楽しむことができるゲームだ」と確信をしたといいます。利府町が「モルックの町」になるのも夢ではありません。町内企業と町おこし団体から町内を巻き込むイノベーションを起こしていきたいと、モルックプロジェクトチームの思いは膨らみます。

— INFORMATION —

真栄工芸株式会社 ● 宮城県宮城郡利府町しらし台6丁目13-2
☎ TEL 022-356-6688 / FAX 022-356-6941
りふくる
✉ rifukuru@gmail.com
🐦 Twitter @rifukuru りふくる@利府町おもてなし運動中！
📍 利府さインカあ帝国 https://www.rifu-info.com/



“ 想像から創造へ
利府の町で
「モルック」を作ろう！ ”

tsumiki TOPIC

【 tsumiki利用者意見交換会を行いました 】

tsumikiは開館してから6年が経過しました。これまでまちづくりの拠点施設として、コワーキングスペースとカフェ機能をベースに、起業・創業セミナー、マーケットイベント、交流会、情報紙・書籍の発行などさまざまな取組を行ってきました。

去る2月12日（日）と15日（水）に開催した意見交換会では、tsumikiが果たしてきた役割を振り返り、これから「あったらいいな」と思うtsumikiの機能や運営の仕方、利府町のまちづくり



について意見交換を行い、参加者の方々から貴重な意見やアイデアをいただきました。できることから、今後の施設運営に取り入れていきたいと思いますので、ご注目ください。

【 利府チャレンジプロジェクトアワード 】

利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumikiでは、2016年度より町内の小商いや市民活動等をサポートしてきました。今回、利府町内の地域の特性を活かしたプロジェクトを募集し、その中から優れた取組を表彰します。表彰されたプロジェクトは特典として、審査員、tsumiki等による継続的な支援を受けることができます。

※表彰者はtsumiki公式HPをご覧ください。

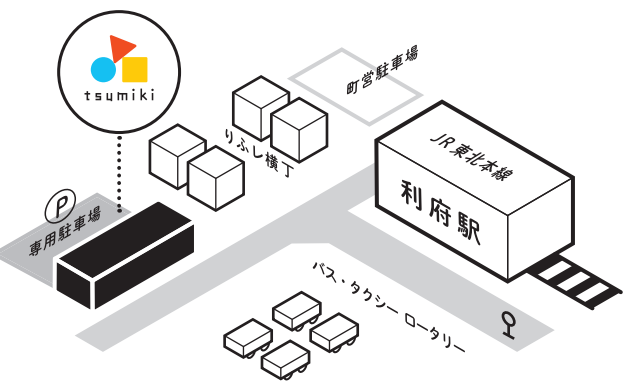
審査員	
	亀山貴一さん 一般社団法人はまのね 代表理事
	清水真介さん 合同会社ホームシックデザイン 代表
	浜出理加さん 株式会社グリーディー 代表取締役



利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp



設置者 利府町(商工観光課シティセールス係)

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。起業・創業や「利府ならではの」シティセールス政策や、移住・定住施策などに取り組んでいます。

同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意味が込められています。

公式ウェブサイト	Twitter	Facebook	Instagram
rifu-tsumiki.jp	@rifu_tsumiki	<tsumiki>で検索	@rifu_tsumiki

🌈「つみきのキモチ」は、利府町内を中心に隣接する市町村の公共施設、カフェ、店舗などで配布しています。

つみきのキモチ vol.20 発行日●2023年3月25日 発行●利府町 企画●一般社団法人Granny Rideto
編集●葛西淳子・五十嵐千晶・桃生和成(一般社団法人Granny Rideto) デザイン●伊瀬谷美貴(interagire)